

グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> シチュエーション（初めて会った時にどう行動すればいいか、クイズ形式にしてもいいのではないかな）別に SST を実施する。 作業的な能力はある。体力の限界がわからないところに関しては指導が難しい。 いいところを伸ばす、いいところの割合を増やす（ポジティブ行動支援）。 言葉の伝え方も大事である。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の様子、変化 	<p>友だちとの関係性において、特定の友だちと過ごすことがあり、腕をつかんで連れて行こうとする行動が見られるため、その場で「一緒に行こう、と声をかけると大丈夫」と伝えたと、すぐに実行に移す様子が見られた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 教員自身の成果や課題 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> 担任のみではなく、他の教員との関わりを大事にすることで、視野を広く持ち、いろいろな人の意見を取り入れられるようになった。 教員との間のルールを基に関わりを深めることができた。交渉などをするが、そこで自分の意見を無理に通すことなく、対話をすることで折り合いをつけることができた。
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<p>目標：友だちや教員等と言葉で適切にかかわることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員や友だちとコミュニケーションをとる中で、言葉かけで関係性が構築できるようになる。（断られても、関係性が継続できるようになる。）

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： 小学生の頃は不登校であった。中学部に入学後、特定の担任との関係性も良好になるも3学期は学校に気持ち向かないことが多く登校回数も減った。 ・クラス編成後、安定して登校することができている。苦手な活動も自分のペースで参加できるようになった。活動する中で、自分の思いや要望をアウトプットすることが難しい。（特に担任がいない場合）
	• 自立活動の目標	・安心できるコミュニティを増やす。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	・不登校になる要因を減らせるよう、前もって授業の活動内容を提示する。活動の中で本生徒が苦手意識を抱えている場合には、参加の方法や活動内容の工夫を行う。 ・クラス活動や特定のグループなどの小さいコミュニティを通して自分のおもいや要望の伝え方など、人との関わり方について伝える。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	・交友関係も良好であり、居心地の良いコミュニティができつつある。また、担任がいない環境でも笑顔で過ごしていることが多い。登校回数も安定している。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	・教員自身の成果としては、多くはないが前もって授業の活動内容を細かく提示できたと感じる。また、活動の中で本生徒が、苦手意識を抱えている場合には、参加の方法や活動内容の工夫を丁寧に行うことができた。引き続き、生徒の状況に合わせて支援を継続したい。

グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> 環境設定に関しては、大人が可能な限り関与することはできるが生徒自身の特性など難しい面もあることを感じた。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の様子、変化 教員自身の成果や課題 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> 交友関係も良好で、居心地の良いコミュニティが定着したこともあり、担任がいない環境でも笑顔で過ごしていることが増えた。一年時に参加が難しかった西フェス（練習含む）も安定して取り組むことができた。 活動の中で本生徒が、苦手意識を抱えている場合には、参加の方法や活動内容の工夫を丁寧に行った。引き続き、生徒の状況に合った環境設定を行えるようにしたい。
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の目標としては、困っていることを担任や身近な友だちに自分なりの表現方法で周りに示すことができる。 課題としては、環境が大きく影響するため、大人との関係づくりも必須である。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	■知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題：他人への興味が乏しい。一人で過ごすことを好み、休み時間やエンジョイタイムでは外を眺めている（デイサービス送迎車の車種を確認する）ことが多い。保護者はもう少し友だちとの関わりを増やせたらよいと思っている。
	• 自立活動の目標	友だちや教員と関わる機会を増やす。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	• 給食献立のイラストを描くよう促し、周囲と関わるきっかけにする。 • 本人の好きなことを大切にし、話題にすることで、周囲とやりとりする機会を増やす。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 献立イラストを描いている最中に、周囲の教員や生徒が話しかけてくるのを受け入れ、これは何？などの質問に答えることができた。周囲も本人がイラストを描くことが得意なことに気づく様子も見られた。今後は好きな食べ物等の会話につなげていきたい。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 本生徒から周囲に関わるきっかけを設定することが課題。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	• イラストをほめてもらったら「ありがとう」というなど、想定されるパターンに対してどのように返事をするかを提示する。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に会話は無いが、給食が好きな生徒が近くに来て一緒に過ごすことが多くなった。また、その様子を見て別の生徒も近くに来るようになった。本生徒が給食イラストを描き、その姿を無言だが、朗らかな雰囲気で見守ることが本生徒を含む3人のルーティンとなった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話が必ずしも必要ではなく、話しかけられたら答えることができるコミュニケーションスキルがあれば良いと考えることができた。
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをとることの楽しさを味わい、多くの人と関わりを持とうとする。 ・会話や口頭指示を聞きとる力を伸ばす。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自他の境界線が曖昧なため、他人の行動を自分事のように捉えてしまう。 • 自分に直接関係のない事象を受け入れることができず、相手の行動を止めようとしてヒートアップしてしまい、他害行為をしてしまう。
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> • 自分と他人の違いについて知る。 • 相手の名前を呼んでから話しかけることができる。
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • 他人の行動を気にしている様子が見られた場合は、「あなたには関係のないことだよ。」と言葉かけをして自他の境界に気が付けるようにする。 • 名前呼びを忘れている場合は言葉かけをして適切な話のかけ方を示す。 • 状況にあった適切な言葉のかけ方を、手本を見せて示す。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> • 「関係ない」という言葉と、意識を逸らす行動が結びついてきている様子が見られる。「関係ないね」と自分から言う場面も増えてきた。 • 要求を伝える際に「〇〇先生、」と名前を呼んでから伝えることができつつある。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> • 他人の行動に意識が向き始めた初期段階に言葉がけをすると、「関係ない」という言葉を飲み込みやすく、意識を逸らす行動に移りやすい。

グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・親しい教員との関係性により正しく行動ができているように見えている部分もある。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・不調の生徒に他害を行おうになっても、「関係ない」の言葉で制止し、離れることができた。また、直近で同様の事象があったが、自ら「関係ない」と言葉に出して落ち着くことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから事象が起こりそうなタイミングで言葉かけを行い、自身の気持ちを落ち着く経験を積んだことが効果的に働いたと考えられる。
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・この1年の取り組みで成果が出てきたところなので、次年度以降も継続して取り組み、自身の気持ちを落ち着く経験を積んでいって欲しいと考える。